

「中国問題を読み解く」 2015年5-7月講座

■5月20日(水) 14:30~16:00

【5042531b】

『新常态』下の中国—2015年の政治と経済

西園寺 一晃 (工学院大学孔子学院学院長)

中国では「反腐敗」運動が進み、「ハエ」(汚職小役人)だけでなく「トラ」(汚職高級幹部)まで、容赦なく摘発されている。経済は減速が続く中で「新常态(ニューノーマル)」の下、構造改革に必死に取り組んでいる。その一方で、経済外交は華々しい。「一帯一路」は陸と海のシルクロード沿いに広大な経済圏を作る構想だ。その一端を担う「アジアインフラ投資銀行(AIIB)」は予想をはるかに上回る57ヶ国で船出しようとしている。中国経済は本当のところどうなのか、中国はどのような世界の秩序を目指しているのか。中国にとって、政治、経済とも2015年は正念場の年となるだろう。3月に開かれた全人代(全国人民代表大会)を踏まえ、今年中国の政治、経済を考えてみる。

■6月17日(水) 14:30~16:00

【5042531c】

知財大国に成長した中国と日本の知財戦略の課題

馬場 錬成 (中国総合研究交流センター フェロー)

中国は、特許、実用新案、意匠、商標の産業財産権すべての出願で世界トップになった。知財に関する訴訟も、訴訟大国と言われる米国の2倍以上あり、昨年からは知財専門裁判所も創設された。日中間の企業活動の知的財産戦略、日中間の研究開発の成果の知財権利取得など、どのような戦略が課題になっているか。想像を絶する速さで成長する中国の産業現場と日本企業の活動戦略を提案して討論の場としたい。

■7月15日(水) 14:30~16:00

【5042531d】

人生を豊かにする四字熟語

堀内 正範 (ジャーナリスト・元朝日新聞社『知恵蔵』編集長)

日中双方でよく使われる「四面楚歌」「九死一生」「温故知新」「十全十美」といった「四字熟語」はパソコンでポンと出ますが、中国ではよく使うのにわが国ではなじみが薄い「雪中送炭」「各有千秋」「左右逢源」「急流勇退」といったものは一字ずつ叩かないと出てきません。内容は察しがつくのですが、「雪中送炭」は3・11の東北の現地で見かけました。日中で異なる「龍頭蛇尾=虎頭蛇尾」、「良妻賢母=賢妻良母」などもあります。「四字熟語」というのは、先人がなした事跡(故事)から後人が人生の観智として記憶し記録してきたもので、多くは漢字の特徴を活かして四字の形に整えられています。知って納得して用いることで、人生を豊かにすることができます。

場 所 工学院大学新宿キャンパス 中層棟 4階 工学院大学孔子学院

受講料 1,500円/各回 学生 500円/各回



工学院大学孔子学院

〒163-8677 東京都新宿区西新宿 1-24-2

工学院大学新宿キャンパス 中層棟 4階 ■新宿駅西口から徒歩5分

【お問い合わせ・お申込み】

電話 03-3340-1457

FAX 03-3342-3150 E-mail cik@kogakuin.ac.jp

URL <http://cik.kogakuin.ac.jp/>

